

第 24 回 朝来市公共交通会議 会議録

○ 開催日時 令和 6 年 12 月 19 日 (木) 午後 2 時から午後 3 時 40 分まで

○ 開催場所 朝来市役所本庁舎 3 階 庁議室

○ 出席者氏名

	出席者	欠席者
委員	天 野 修 二	田 内 淳
	黒 崎 崇 裕	高 品 浩
	清 瀬 真紀子	井 上 学
	森 口 洋 平 (代理：岡田 勝)	
	山 口 忠 司	
	小 田 正 儀	
	山 本 正 之	
	小 谷 豊 彦	
	巻 野 めぐみ	
	木 原 健 太 (代理：中西 克之)	
	山 本 良太郎	
	熊 谷 樹一郎	
	藤 野 隆 志 (代理出席：中井 智也)	
	新屋敷 昭 一 (代理出席：吉本 道明)	
	藤 本 修	
	浅 田 繁 市	
伊 藤 宣 廣		
西 垣 尚 子		
事務局 (都市整備部都市政策課)	部 長 小 谷 康 人	
	課 長 京 住 真 志	
	副課長 足 立 智 義	
	上席主査 大 林 厚 之	
	主 事 古 家 滉 太	

○ オブザーバー (欠席) 兵庫県交通政策課 副課長 新 田 博 史

1 開 会

2 あいさつ

会 長： お寒いところ、お集まりいただきありがとうございます。本日、ご審議いただくことが多いかと思いますが慎重審議いただきますよう、よろしくお願いたします。

3 報告事項

(1) 地域公共交通施策に係る主な取組状況について（前回会議以降）

事 務 局：【資料1に基づき説明】

委 員： 11月7日の路線バスの再編協議について、我々全但バスと朝来市で協議を行っている。4月からデマンド型乗合交通が和田山・山東エリアで導入されるが、この地域にはアコバスが3路線運行している。また、同地域内では路線バスも運行している。今後、残していくことを計画している地域間幹線路線である山口本線、中央公園線等を強化していくため、乗務員をシフトしていく計画としている。そういった状況から重複路線についても、4月に見直しができるように協議を今後も継続していきたい。

(2) 朝来市デマンド型乗合交通（生野・朝来エリア）の運行状況

事 務 局：【資料2に基づき説明】

委 員： 1点目の質問が、自家用有償の事業であると思うがなぜ乗合交通と名乗られているのか。

2点目の質問が、令和6年度の朝来市の予算で、デマンド交通に関する予算額が7,600万円だったと思うが、そのうち生野エリアの額はどれぐらいなのか。というのも今まで公共交通会議でいろいろ報告をされているが、あさGOの運行状況だけが報告されていて再編により以前からどう変わってどういう影響があったのかという報告が一切されてない。直近の令和5年度ウイング神姫が旧生野町エリアで路線バスを運行していた時、旧生野町だけで路線バスを利用されていた方が45,000人超えた。再編後の利用人数が11月までで4,835人で路線バスと比べ遥かに利用者数が減っている。朝来市から路線バスに対していただいていた補助金とこの45,000人という利用者数を勘案すると1人当たりの朝来市の公費は271円。ところが、令和6年度のデマンド交通に関する予算が7,600万円で利用人数が4,835人ということなので、1人当たりにかかっている公費は遥かに上がっている。新しいことの報告ばかりではなく、何がどう変わってどう影響を受けているのかということはきちんと見極めていく必要がある。実際、この45,000人と4,835人、差し引くと大方3万後半の利用者数がいなくなっていることになる。その人たちの移動手段はどうなったのだろうと皆さん素朴に思わないか。バスが使えなくなって、あさGOだけになっている状況ではない。であれば何に変わったのか、もしかして移動してないのかもしれない。そういうところがきちんと検証されていなければ、駄目だと思う。

事務局： 1点目について、市では自家用有償旅客運送の許認可を受けて現在運行している。一般旅客運送の4条運行でいう乗合という意味合いではなく、乗り合って利用する移動手段として乗合ということを謳っており、法的な解釈でいう乗合事業ということは違う。

2点目について、令和6年度当初予算においては、デマンド型乗合交通の予算は約7,600万を予算措置。この中には初期費用や朝来エリアの運行経費も含まれており、今はっきりと生野エリアだけの数字は示せない。生野エリアでは10月から本格運行開始、朝来エリアでは現在試験運行中であり、経費については、まだ決算が打てていない状況。今後、決算や見通しを立て、以前に比べてどうなったのかということも委員の皆様を示していく予定で考えている。また、PDCAサイクルを回していくことも当然、考えている。再編において、現行の路線バスやアコバスにかかっている総経費の中で、再編していくという目標を持ってこの事業を進めており、そういった費用面についても合わせて検証していく予定。

委員： 生野地域では路線バスを利用できなくなった小学生や中学校のためにスクールバスを新たに運行している。その経費も込みで報告いただきたい。

会長： 先ほど事務局から決算後にPDCAサイクルを回し検証するとのことであったが、大体どのぐらいの時期に行うのか。

事務局： 来年4月1日からは和田山・山東エリアで新たに運行を開始する。まだ導入途中であり初期費用もかかってくることから正確なランニングコストはまだ見えてこない部分もある。来年度中のいつかのタイミングには示したいと考えているが、和田山・山東エリアの本格運行が来年10月であり、それ以降に試験運行を踏まえた上での経費の見通しを立てていきたい。

委員： 栃原地域の方から「これまでは路線バスが通っていて生活するのにすごく楽だった。デマンド型乗合交通になり、買い物や通院に利用しているが、日曜日が使えない」との意見を聞いている。これまで日曜日にも移動手段があったところが今は使えない。これから朝来エリア、和田山・山東エリアの山間部においても、これまで日曜日に1日2便でもバスのあったところが、タクシーをお願いするしか高齢の方の移動手段がなくなる。そのあたりを聞かせて欲しい。

事務局： これまでも日曜日に運行して欲しいという要望も聞いている。ただ、現在の利用状況を見ると火曜日と金曜日の利用が多い状況で、これは通院もしくは用事は平日に済ませておこう、また土日は家族の方に連れて行ってもらえるということ等からこの傾向が出ているのではないかと思われる。一番少ない曜日が土曜日となっているが、日曜日の催し物等にも行けるようにして欲しいという要望もある。現在のところは当面、和田山・山東エリアが導入されるまでは現在の運行日で考えているが、今後、要望等を精査し、日曜日の運行について検討を重ねていく。経費やドライバー確保の課題もあり、必要性を見極めながら検討する。今まで路線バスが走っていた地域では、少ないながらも土日にも移動手段があったということは十分理解しているが、一方で交通事業者を取り巻く現状も一定ご理解いただきながら進めていく必要もある。

- 会長： 基本的な考え方として、定時定路線からデマンド型に移行するということは、必ずしも便利になるとは要素だけではない。逆に利用者が減ってきた中での対応というのが一般的な考え方。どうしてもそういった不便な部分が出てくるのはある意味当然ではある。そういったことも含めて今後も進めていく必要がある。
- 委員： 冒頭の質問に関連するが、第21回の公共交通会議の中で資料2として今後のロードマップが出ている。先ほどの市の回答からすると、これにまた追記があるという理解でいいか。この資料の内容では令和6年度の計画最終年度までのロードマップとなっているが、検証の部分について令和6年度中にとということであれば、一番大きい和田山・山東エリアが本格導入するまでに検証をされるのか。ロードマップを作り直して、和田山・山東エリアも導入した後、朝来市全体があさGOを利用したその結果を見極めて、PTCAのCの部分をしっかりすべきだと考える。
- 事務局： 非常に重要なことと考えている。この後、協議いただく本公共交通会議の今後の在り方にも関わってくるが、現公共交通網形成計画は今年度末で計画期間が終了する。ロードマップについて今ははっきりとは言えないが、市の公共交通体系も転換期であり、PDCAサイクルを回していくという観点からも引き続き公共交通会議の場で、意見をいただきながら進めていきたい。
- 委員： 先ほどの委員の発言の趣旨と事務局の回答が合致していないように思い、再度お聞きする。PDCAのCの部分が全然されていないのに、これからもっと大きなエリアに全く同じものを導入するというのが、はたしていいのかという趣旨ではないかと思う。Cの部分がないまま他のエリアに派生させてしまった後に、全体のCをしてもあんまり意味がないように感じる。住民の方も不安になるのではないかと思う。本公共交通会議のあり方の話を事務局から言われたが、本公共交通会議のあり方というのは正直言うと住民の方からするとあまり関係ない部分で制度上の話。生活の足という観点でもっと真摯に考えないといけない。そういった趣旨で私の発言もご理解いただければと思う。
- 事務局： 検証については非常に重要だと思っている。現在のデマンド交通の導入や路線バスの再編については、一昨年から進めてきた内容で、住民の皆さんからのご要望やご意見、パブリックコメントの手続きも踏まえた上で、昨年末に朝来市公共交通網形成計画に基づく第3次再編指針を取りまとめている。この指針に基づき、現在、デマンド型乗合交通の導入を段階的に進めており、進むべき方向は一定、指針として定めている。ただ、定めたら定めたままただ進めるだけでは駄目だと思っており、アンケートを実施したり、意見をお聞きする場を設けたいと思っている。そういった検証をしながら、より良い交通体系に繋げていきたいと考えているが、方向性としては昨年度末に定めた指針に基づき進めているということでご理解いただきたい。

(3) 朝来市デマンド型乗合交通に関するアンケート調査の結果

事務局：【資料3に基づき説明】

委員： 今回のアンケート調査は自宅登録がある方、あるいは自宅登録はないが利用したことがある市民を対象としており、結果を見ると利用すれば意外と便利だという結果だと思う。ただ、アンケートをするのであれば、やはり登録をしない方、あるいは利用しない方に対して、なぜ登録しないのか、なぜ利用しないのかといった方向からもアンケートをとっていく必要がある。それでこそ初めて登録者数を増やすための算段、あるいは利用者を増やすための算段に繋がっていく。今回の調査は非常に有益だとは思いますが、そういった視点も入れた方がいいのではないかと思います。

事務局： やはりいろんな角度から見ていく必要がある。利用されている方のご意見や利用されていない方については、なぜ利用、登録をされないのかという観点の意見も必要と思う。今後、検討していきたい。

委員： アンケートは非常に有意義だと思う。また利用される方には満足度が上がっていることが見えて良かったと思う。分析のところでもちょっと見方がわからないので教えて欲しい。母数が248からスタートして、資料10ページで93になり、この93がよく出てくるが93の対象は248人中のどこの部分を指しているのか。

事務局： 資料9ページの利用の有無のところ、今回アンケートに回答いただいた248人中で利用したことがある方が93人。その実際に使ったことがある93人の方について、以降結果をまとめている。

委員： アンケート結果から公共交通機関の利用頻度が増加し、外出機会が増えたという結果であった。テレビの報道では、今後一人暮らしが増え2050年には全国的に世帯数でいうと40%になる。その中で医療関係や介護関係の専門家の話では、やはり家の中に閉じこもっていても駄目で、外に出て人と触れ合うことによって健康増進や認知症防止、また最悪の場合の孤独死等を防げるということであった。そういった意味合いから見てデマンドになって利用者が増えていくということはいいことだと感じている。自動車を持ってない人でも今後、一人暮らしになった場合、このデマンドを利用して外に出て人と触れ合い健康増進に繋がっていくと思う。今後に期待している。

委員： 利用者は自宅で乗れること、使用料が安いことで喜んでおられる。しかし、地域によっては旧中川地区でも新井地区の方々は近くの医院や買い物のところに多く行かれるが、中川地区では、やはり竹田の医院や朝来医療センター、また和田山を中心に買い物をされる方もかなり多い。旧朝来町内だけで利用する場合は使用料も安いし、心から感謝して喜んでいますが、今後は市内全体で動けるようになるのか。

事務局： 朝来エリアについては、アンケート調査を1月に実施予定。エリアを跨いだ運行については、多くご意見をいただいている。素直なご意見かと思うが、現在の市の考え方としては、やはり既存の鉄道や路線バスに繋ぐ手段としてこのデマンド型乗合交通を導入している。既存の鉄道や路線バスを維持し、共存しながら地域の足を守っていかなければならないという考え方で進めており、現在のところはエリアを跨いだ運行は予定していない。

しかし、いろんなご意見をいただいております、引き続き協議は続けていきたい。国の方ではライドシェアといったやり方等、規制緩和も進んできている。人口減少時代になり少ない2種免許を持った方ばかりに頼ってきたこれまでの時代とは違うということで、地域の足をどう守っていくのかということとは切実な問題。こういった国の動き、規制緩和等の情報もしっかり集めながら、市にとって何が一番ふさわしいのかということは常に研究していきたい。

委員： 生野エリアでは11月に各区長に地域の方の意見や要望等を集めていただき、11月末に整理した。この内容については都市政策課に提出をしております、今後改めてもらえることは十分検討して欲しい。合わせて自宅登録について、これまで地域に住んでおられる外国人については取れてないというケースもある。外国人から通勤に使いたいという意見も出ており、自宅登録を促すよう検討していかないといけないと思う。生野学園では金曜日、日曜日の利用が結構あるが、どちらも時間が合わずスクールバスをやってもらっている。先生に聞くとウイング神姫が撤退して便利が悪くなったという声も聞いている。また、生野の区長会では目標設定をしてはどうかということで12月、1月ぐらいから目標設定をして回覧板等でお知らせしていきたいと思っている。

(4) 令和7年度「あこか」販売予定

事務局：【資料4に基づき説明】

委員： チラシの一番下に記載の二つの病院までの運賃が半額ということで、八鹿病院まで320円が160円、神崎病院まで200円が100円と書いてあるが、全但バスでいうと八鹿病院だけが160円の半額だが、一般のお客さんが八鹿病院の途中で降りても、160円と間違える方が非常に多いので、この書き方をちょっと考えていただきたい。

事務局： 正確にこの金額が伝わる方法を考えていきたい。

委員： 全但バスでは3月の運賃改定について現在、認可申請中。認可はおろていながこの金額が変更となる予定。また、神崎病院の200円も違うと聞いている。

事務局： あこか購入の方には、訂正のお知らせをする。

(5) 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画の一部変更

事務局：【資料5に基づき説明】

会長： 変化の大きい再編の時期でもあり、気を付けて進めていく必要がある。

4 協議事項

(1) 今後の朝来市公共交通会議の在り方

事務局：【資料6に基づき説明】

委員： 鉄道会社としては道路運送法の会議には出席しないというのが大前提。他市町の交通会議も道路運送法の場合は参加してない。活性化再生法の方は義務付けられているので、参加している。このままいくのであれば、但

馬の公共交通会議で朝来市の鉄道に関する議論を議題として上げてもらえない。

事務局： 大前提としては先ほど JR からお話いただいた通りかと思うが、市の考え方としては公共交通を考える上で JR にも参画いただきたい。ただ、組織としての考え方もあると思うので、一度お持ち帰りいただきたい。

委員： 朝来市だけ入るとなぜ朝来市だけとなる。持ち帰って後日連絡する。

(2) 朝来市デマンド型乗合交通（和田山・山東エリア）の運行内容

事務局：【資料7に基づき説明】

5 その他

事務局： 今後の公共交通会議について、次回の第 25 回を令和 7 年 2 月 25 日の午後 2 時から開催予定。

委員： 駅前でとまり木という喫茶がある。一番高齢の方で 94 歳の方がバスで糸井の奥から乗り継いで来られる。病院やそのついでにバスの合間にとまり木に寄って、居場所みたいな感じで、皆さん繋がりを持たれている。また、旅行者の方とか電車と電車の間にとまり木で待たれていて、コミュニティというのができている。例えばこのとまり木みたいな居場所が駅前からなくなると、そういう途中、途中で待つ場所は何もない駅の中だけなのか。また、その地域の居場所やエリアを越えた居場所を求めておられる方の居場所がなくなってしまう。そうなってきたときに、和田山の駅前のようないろいろな玄関口になるところに何もないというのはどうなのかと思う。デマンド型乗合交通の開始について、その糸井の奥の方も頑張っていて楽しんでされている。一人暮らしの方や大蔵地区の方でもそういった方が結構いる。居場所がもしもなくなったときに、また別のところでも集えるような場所、そういうことも考えていただきたい。アンケート結果では目的が病院等、何か絶対に用事でないといけないみたいに見えるが、例えば知人に会いたいとか、ただ何にもなく集まりたいといったような目的として公共交通を使うというのが、健康維持のためにも一番いいのではないかなと思う。そういう居場所作りみたいなことも考えていただきたい。

会長： 公共交通の世界ではいわゆる交流人口というテーマもあり、人が滞留する機会を設けるとい機能も実は持ち合わせている。このあたりは市としての拠点整備にも関係する。

委員： 和田山駅前については、合併当初には市役所新庁舎も市街地にということであったが、新たなインフラ整備にもお金がかかる、こちらが寂れるということもあり、方向転換して現在の場所に建てたということもある。そんな中でも以前はプラザということで郡内唯一の商業施設ということであったが今はもう本当にシャッター街になっており、駅前通りについても同様である。市としても、空き店舗を利用した賑わい創出、特に和田山駅前については他のエリアよりも重点的に補助が出るような仕組みを作り、コンビニや集いの場所を作っていたが、コロナ禍もあり継続できなかったということもある。和田山駅の利用について市の方でも考えており、

今後自由通路であったり、憩いの場所というのも設けていきたいと思っている。これらについては各年齢層で居場所を求めてられていると思っており、情報共有しながらいろんな政策を今後展開していきたい。

また、本日デマンド型乗合交通の関係でいろいろ意見をいただいた。市としてはこの2年間で市内全域、一気に実施するという方針で進めている。先ほど PDCA の関係で現在は途中段階でありその辺の話ができていないが、基本的には再編前の路線バス及びアコバスでかかっていた経費での再編、デマンド型乗合交通の導入ということを基本に考えている。先ほど事務局からもあったように現在は導入の段階でありイニシャルの分もかかっている。その辺を精査した上で、今後の会議の中でも示せるものは示していく。また、公共交通全体が人口減少や運転手不足の問題がある中で、どのようにこの朝来市の公共交通を生かしていき住みよいまちにしていくかという観点で進めていきたい。今後も皆様方にお知恵をお借りしたい。

会 長： 大きな変化の時期である。やはり先ほど PDCA という言葉があったが、それを次の変化、次の変化に生かしていくということは大事。こういった会議で皆様がいろいろ注目しながら意見を出していくことがまず大事なチェックにもなる。今後も引き続き、ご意見等をいただきいただきたい。

6 閉 会

副 会 長： いよいよ来年から和田山・山東地域にもデマンド型乗合交通が導入される。市内全域に導入されるが、生野地域や朝来地域の実績、あるいはアンケート調査の結果等を考慮していただき、また、委員の皆さんのご意見、ご協議をいただきながらこの朝来市公共交通会議が有意義なものとなるようによろしくお願いしたい。